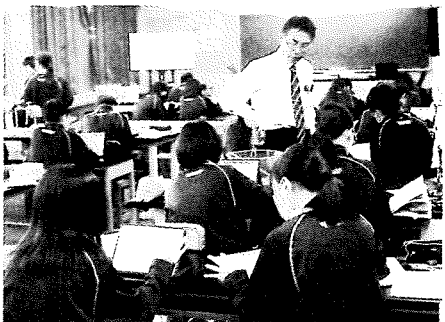


新たな時代の授業へ研鑽

ICT有効活用し授業公開



ICTを使わせながら指導する岡野教諭

庭学習や校務効率化など教育課程全般にわたって実践を行いながら、全国に事例を展開するもの。

旭川市からは緑が丘中、緑が丘小学校、西御料地小学校、緑新小学校の4校が指定されている。

今回、緑が丘中がICTを活用した授業改善に向けて取り組んでいる様子を広く公開し、普及を図ろうと授業公開・校内研修会を実施。市内外の教職員をはじめ、上川教育局、旭川市教委の職員を合わせて63人が参加した。

象」のうち「光の屈折」の授業を展開。手書きノートアプリ「Goodnote」を活用して、屈折した

光の進行方向や角度などの作図を指導した。手書きで描いた線や図形の形をAIが自動で整えた

Iが生かせること②課題解決型学習にICTを活用することの重要性の2点について講演した。

①では、変化の激しい時代において「自分自身で対応していく力を身に付けさせることが学校に求められる」として

上で、学習した内容から最適解を選出する生成

講演する平井氏



り、ジャンルごとにファイヤしやすい・見返ししやすいノートを作成できるなどノート管理がしやすかったりするアプリの機能を生かし、見た

AIの特性と、人間に備わった自発的に物事を考えたり、文章を理解したりすることが出来る能力を対

比。「AIに授業の構成を聞くなど役割を与えて導き出した最適解をもとに、教師が生徒の実態などを踏まえて内容を考えるなど、AIをたたき台として利用できる」と説いた。

②では、天気図の気圧や前線から天気の変化を読み取る授業を例に、生徒が課

題解決に向けてICTを利用するよう促す指導方法を紹介した。

生徒が見つけた課題に対して、すぐに答えを教えるのではなく、解決するまでの過程や道筋を示すことの重要性を説いた。

その上で「タブレットを使って天気予報の番組制作を手本にすることで、自身が調べ、思考を重ねて理解したことを自分の言葉で言い表せるようになる」と伝えた。

【旭川発】文部科学省のリーディングDXスクール事業の指定校・旭川市立緑が丘中学校（貞弘真悟校長）は10月下旬、同校で授業公開・校内研修会を実施した。研究主題「自ら学ぶ・緑中生の育成、学びのDX実現に向けた個別最適な学び・協働的な学び」のもと、全学年の授業を公開したほか、文科省学校DX戦略アドバイザーの平井聡一郎氏がAIとの関わり方などについて講演した。参加者は、新たな時代に求められる授業づくりに向けて研鑽を積んだ。

リーディングDXスクール事業は、全国各地で1人1台端末やクラウド環境を活用した効果的な教育実践の創出・普及を図ることが目的。日々の授業改善、家